

ADRA News

2024.12 Vol.142

戦火の影に希望の光を 避難民に寄り添う支援のかたち



戦闘が激しい地域では、配付された支援物資が人々の命をつなぐ(ウクライナ)



カディージャさん(左)と7か月の妹を抱っこする
イブティサムちゃん(右)。もう一人の妹リーンちゃんは2歳半。



ADRAスタッフと共に
食料の買い出しをするバシラさん



バシラさんと娘のハラちゃん



バシラさんの息子アナスくんとワリードくん



2024年9月下旬以降、レバノンでの戦火は激しさを増しています。国際連合人道問題調整事務所(OCHA)の2024年11月7日のレポートによると、死者は3,103人、負傷者13,819人、85万人以上が国内で避難民として生活しています。さらに、47.3万人が内戦中のシリアへ陸路で避難しました。もともとレバノンで避難生活を送っていた約150万人のシリア難民、そして48万人以上にのぼるパレスチナ難民も、安全な居場所を失っています。

この大きな数字の中には、一人ひとりの命があり、それぞれの体験と苦しみ、そして切実な願いがあります。

イブティサムちゃんは、わずか10歳で、7か月のセリーヌちゃんと2歳半のリーンちゃんの母のような存在となりました。父親は出稼ぎに出たまま戻らず、母親の行方もわからないからです。両親が不在の中、戦禍に巻き込まれたイブティサムちゃんは、周りの大人の手を借りながら、細い腕で幼い妹たちを守ろうと必死です。

17歳で母親になったカディージャさんも、7か月の乳飲み子を抱えて避難している一人です。母乳が止まってしまう、パンをお茶やミルクに浸したもののしか与えることができない無力感を抱えながら、熱や咳と闘う息子のために祈っています。

幼い3人の子どもと、双子を妊娠中の妻バシラさんを連れて逃げてきたカレードさんも、苦しい避難生活を送る一人です。バシラさんには羊水が少しずつ漏れてしまう高位破水の症状があり、母子ともに危険な状態にあります。カレードさんは「もうすべてを失った。妻と子どもまで失いたくない」と不安をにじませています。

このような状況下の中、ADRAはバシラさんが入院できるように病院との調整を行いました。また、イブティサムちゃんやカディージャさんたちが、家族ごとに食料を購入できるフードカードを提供し、十分な食事がとれるように支援しています。体を洗える機会も作り、身ざれいにできる喜びをも取り戻してもらいました。

何万人もが避難しているという事実の背後には、イブティサムちゃんと2人の妹、カディージャさんやその赤ちゃん、双子を妊娠中のバシラさんなど、一人ひとりの存在があります。辛く困難な状況の中、支援が届く瞬間には、だれもが希望や愛を感じることができます。皆さまのご支援をお待ちしています。

※もっとレバノンのことをお知りになりたいですか？ Webで「アドラ レバノン」と検索、もしくはこちらのQRを読み込むかURLをクリックし、今ADRAがレバノンで実施している緊急支援報告をご覧ください。



<https://x.gd/0LdSq>

幼い妹たちを守る10歳の少女、17歳の母 ～戦禍を生きる 家族たち～

ご寄付を
お待ちしております



<https://x.gd/E5I50>

「にげたひよこ」の帰る家がこわれています 一緒に直していただませんか？

五味太郎さんの『ひよこはにげます』という絵本を ご存じですか？

五味太郎さんの『ひよこはにげます』という絵本をご存じですか？

好奇心いっぱいのひよこが、軽い足取りで外の世界に飛び出し、いろんなところへ、いろんな方法でにげていきます。そして最後に、家族の待つおうちに、にげてかえってくるお話です。

読むと、「安心して帰れるおうちっていいね」という気持ちが湧いてきます。と同時に、ふと胸をよぎることがあります。「おうちがなくなってしまった子どもたちは今、どうしているかな」と。

例えば、アジアの最貧国のひとつアフガニスタンでは、2023年10月に大きな地震で家は崩れ、多くの方が犠牲になりました。

学校がわりのモスクにいた子どもや、働きに出ていた大人は助かりました。しかし、地震発生から1年以上が

たった今も、崩れ残った家の壁にありあわせの布をつなげて被せただけの、とても家とは呼びがたい「家」で暮らしています。

この村では、地震だけでなく、洪水もしばしば発生します。洪水になれば、水を汲んでくるタンクも、1本1本ひ



『ひよこは にげます』
五味太郎作 出版：福音書店



ろった薪も、屋根や壁にしている布も、大切なものはすべて流されてしまいます。冬は雪が積もる極寒の地のため、今年もどう乗り越えようかと人々は心配しています。

しかし、このような環境にいても子どもたちは、この地域に今後も住み続け、「医者になりたい」「先生になる」「ぼくはエンジニア!」という、大きな夢をもっています。



「僕の村には、子どもの頃に勉強できなくて、字が読めない人が多いんだ。だから、将来は学校の先生になって、字が読めない子どもたちをなくしたい。ヘラートに住む人たちを支えられる人に、将来なりたいんだ」エザトゥラーくん(10歳)



「将来、私は学校の先生になって家族を支えたいです。それに地域の明るい未来にも貢献したいです」ハーティマちゃん(11歳)

災害復興支援のために、ADRA ひよこおうちプロジェクトを始めます！

ADRAはこれまでも、安心して暮らせる家を奪われてしまった人々に寄り添い、活動してきました。

支援活動は継続して行っているものの、災害の頻度は増し、その被害規模も年々大きくなっています。今までと同

じように寄付を集めていては、支援を届けられない人や場所が増えてしまいます。

そこで、この危機が続く世界の中で、「みんなの安心な家を取り戻したい」と共感してくださる仲間を広く募集し

ます。それが、ADRAひよこおうちサポーターです。

ひよこおうちサポーターになって、笑顔と幸せが溢れるよりよい世界を、私たちADRAとつくりませんか？ 皆さまのご参加お待ちしております！！



地震被災者への住宅再建(モロッコ)



家屋の修復支援(ウクライナ)

『ひよこおうちプロジェクト』に参加するための2つの方法

ひよこおうちサポーターになるには、右記の2つの方法があります。

ひよこおうちサポーターになってくださった方には、ひよこおうちカレンダーをプレゼントいたします。

(12月1日以降のお申し込みは、1月以降に順次発送となります)

継続 毎月1,000円のサポーターになる

毎月1,000円のご寄付にご登録ください。お申込み日と、翌月以降は毎月17日にお引き落としとなります。つながりを感じていただけるよう、ひよこおうちカレンダーでは、引き落とし日にひよこが描かれています!! 12か月以上の継続をお願いしています。



<https://x.gd/Q1MBa>

単発 12,000円のご寄付

お申し込み時に12,000円のご寄付を1回お願いしています。



<https://x.gd/TVin8>



絵本作家 五味太郎さんの作品とADRAの活動



ひよこおうち プロジェクト

～みんなが安心して暮らせる家を～



サポーターになってくれた方に
オリジナルひよこカレンダーをプレゼント!

※デザインは仮のもので
変更になることがあります

ADRAスタッフが活動地で感じた12月の色

「光陰矢の如し」。2024年も残すところ僅かとなりました。冷たい風が肌に吹き付ける今日この頃ですが、被災地や紛争地で寒さに耐える方たちのことを思うと、胸が締め付けられます。

今回も、世界各国で活躍している仲間、く、現地の色について聞いてみました。

インド事業統括者は言います。「最北端のカシ米尔州出身の私にとって、12月は厳しい冬の寒さが思い浮かびます。雪がたくさん降るので、色で表すなら白ですね。幼少期は雪を楽しむにしていたのですが、今はクリスマス休暇前の忙しさに追われる日々です。それでも、成果を振り返り、新年への準備を進める充実感があります」

ウクライナで働くスタッフは、「聖ニコラスの日、クリスマス、新年といった祝日の季節であり、私にとっての12月は、家族団欒、ホリデーの準備、そして楽しい新年への希望と同義です」と話しながら、次の瞬間、表情を曇らせました。

「すべてのウクライナ人が平和を望んでいます。子どもたちには防空壕ではなく、公園で遊んでほしい。すでにこの戦争で多くの同胞を失いました。12月は雪の白というイメージです。それ

プラス、クリスマスツリーの緑と、ホリデーシーズンの装飾で用いられる赤。それらが組み合わせることで、楽しい雰囲気が生まれます。希望を感じられる日常を取り戻したいです」

ジンバブエに勤務する者も「乾季が終わり、あたり一面が生命力を感じる緑に変わります。また、家族の愛、喜び、幸福を表す赤のイメージも強いですね。食料が豊富になる時期なので」と話します。

ADRAスタッフが選んだ色を、セラピストの田林綱紀さんに解説してもらいました。

「インドでイメージされる白は、慌ただしい日常に追われる曇り空のような印象を受けます。ただ、幼少期の雪遊びの記憶が自由や安息を象徴する青と重なり、曇り空の上にある明るい希望にあふれた青空の広がりを感じているようにも見えます。他の色の影響を受けやすい状況にあり、受け身の色調のニュアンスも見られますね。

同じ白でもウクライナでは、鮮やかな純白として見えているような気がします。平和を切望し、明るい未来に向



インドのカシ米尔州では雪が降る

かって、視線を上げる強さが含まれていることを感じます。

ジンバブエの象徴とされる緑と赤は、対となる補色同士であり、熱れる食物・農産物の緑、そして、喜びや祝福の精神などをかたどる赤が、人間の活動力を示していますね。人と植物の一体感という生命の太いパイプラインも感じます」

皆さまが穏やかに師走を過ぎ、笑顔で新年を迎えられますことを、ADRA一同、心から祈っています。



ソリを楽しむ親子(ウクライナ)



校舎の屋根から雨水を集める子どもたち(ジンバブエ)

震災と豪雨災害から立ち上がる力に 能登半島で続く ADRA の支援

今年1月に発生した能登半島地震からもうすぐ1年がたとうとしています。9月には豪雨が奥能登を中心に能登半島を襲い、新たな災害も発生しました。現地には崩れた家屋やその下敷きになった車も残っており、復興はまだ道半ばです。

ADRAはこれまで、仮設住宅に入られた方への家電製品の配付や断水地域への給水支援、移動カフェ、足湯サービスを通じ、生活再建を目指す世帯に寄り添う支援に取り組んできました。水害発生後は、現地で活動するボランティアの宿泊まりする場所が不足しているという喫緊の課題を受け、輪島市町野町地区にてボランティアの宿泊ベースの整備を進めています。

また、建築士の協力を得て、危険判定後の住居に関する相談を受け、住民の方の希望に沿った家屋の修繕等ができるように尽力しています。

今後は、空き家の再生と地域活性化のサポートにも取り組む予定です。

求められる支援は多岐にわたり、復興まで長い時間が必要となります。引き続き皆さまの温かいご関心とご支援をお願いいたします。

能登半島での活動状況

能登半島での活動状況は「アドラ 能登」で検索いただくか、QRを読み込むことでご覧いただけます。



<https://x.gd/xeyld>



温かい飲み物でほっと一息(七尾市和倉)

アドラのチカラ

ADRA Japanを支えてくださる方を紹介します！



山下圭子さん
無職

— ADRA Japanをお知りになったきっかけ

2017年に起きた九州豪雨災害被災者支援のクラウドファンディングで募金をした際にADRA Japanを知りました。

— ADRA Japanとの関わりについて

今年1月に起きた能登半島地震後、泥かきは体力に自信がないので、それ以外のボランティアはないかと探していました。そんな時、東日本大震災の東北応援ボランティア活動と一緒にやってきた友人に、ADRAが足湯のボランティアを募集していることを紹介してもらい、2月から機会を見つけては参加しています。また、東京事務所で行われている発送作業ボランティアにも何回か参加しました。

— ADRA Japanの魅力や関わってよかったこと

団体によっては単発のみのボランティア派遣や支援をしていますが、ADRA Japanは被災地で継続的な支援を実施しているところがいいなと思い

ました。また、地域とのつながりをもった活動をしているところも魅力です。

— まだADRAのことをご存じない方へのメッセージ

なんでもいいから顔を出してみるのがよいと思います。まずはホームページのブログなどを見て、ご自身にとって信頼できる団体かどうか判断してみてください。

— ADRA Japanへのメッセージ

これからも被災地の皆さんに寄り添う活動をしていってください。お手伝いできる場所は私もボランティアとして参加します。



ADRAからのお知らせ

12月は「寄付月間-Giving December-」です。これは「欲しい未来へ、寄付を贈ろう」を合言葉に毎年12月に全国で行われる啓発キャンペーンです。

どんな未来がほしいのか、あなたの気持ちを「寄付」に込めてみませんか？

一人でする寄付、仲間とする寄付、会社でする寄付、お金じゃない寄付など、寄付にはいろいろなかたちがあります。

以下でもいくつかの方法をご紹介しますので、あなたにあった方法を見つけてみてください。

ひよこおうちプロジェクトの参加

「ひよこはにげます」の絵本に出てくるひよこが、安心して帰れるおうちをもてるように、紛争や自然災害で「おうちを失ってしまった人たち」の住宅を再建するプロジェクトを始動しました。



欲しい未来へ、
寄付を贈ろう。



Giving
December

寄付月間 2024

MORE BETTER グッズアンケート

2025年に開始する寄付キャンペーンでは、ご寄付のお礼に五味太郎さんの「アワブック」からデザインしたADRA特製トートバッグやTシャツを検討しています。欲しいと感じる色やサイズについてお聞かせください！



外国コインや紙幣で支援

海外旅行や出張で、使い切れなかった現地のコインや紙幣。それらをADRAが実施する支援活動のために使ってみませんか？コイン・紙幣ともに国名・発行年代など一切問いません。銀行で両替できなかった紙幣や古紙幣もご寄付いただけます。



公式LINEに ご登録ください！

ADRAでは公式LINEで、支援活動の様子やイベントなどの情報をお届けしております。ご登録は簡単♪QRを読み込んでいただき、「+友達追加」をクリックお願いします。



12月末日までの寄付が 2024年の寄付金 控除の対象になります

ADRA Japanでは2024年10月1日以降、領収証の日付をご寄付の着金日から決済日に変更したため、12月31日までのご寄付が2024年の寄付金控除の対象になります。皆さまのご支援をお待ちしております。



応援メッセージ ご寄付いただいた方より、メッセージを頂戴しましたので、ご紹介いたします！

能登半島は、地震だけでなく台風で大雨の被害も重なり大変苦労されているのをニュースで見て、募金させていただきました。アドラのチームがこれらの募金を用いて良い支援のために用いてくださり、神様に助けられて、復興のためのよいご奉仕をしていただけますようにお祈りしています。
(能登復興支援 沖縄県 M.Kさん)

住む家を失った方々に、落ち着ける家を与えられますように、お祈りしています。その働きをして下さるメンバーの方々の健康と安全も守られますように、お祈りしています。
(ひよこおうちサポーター 東京都 Y.Tさん)

今年の能登半島の被害はあまりにも酷く本当に心が痛みます。頑張るとは申しません。どうぞお体をご自愛ください。
(能登復興支援 神奈川県 Y.Aさん)

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ホームページ
<https://www.adrajpn.org/>



発行人 青木 泰樹

団体概要

発行 認定NPO法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan X(Twitter): ADRA_Japan
Instagram: adra_japan LINE: https://lin.ee/sbm2uFM
YouTube: @ADRAJapan

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務局責任者 青木 泰樹(常務理事/事務局長)
創立年月日 1985年3月30日

デザイン: TIMA GEVOEL Co.Ltd.

